

げんきな子ども

やさしい子ども

がんばるこども

北区立ふくろ幼稚園

「いつのまにか」を振り返る

園長 篠澤 恵理

年長もり組の子どもたちの大好きな歌「こころのねっこ」作詞・作曲 南夢末の歌詞には、「いつのまにか 大きくなった いつのまにか 泣かなくなった」という言葉に続いて「いろいろ できるようになった」という一節があります。子どもたちからは、「今のもり組の歌だね。」という声が聞かれました。担任が、幼稚園生活の中で「みんながいろいろできるようになったことは何？」と、子どもたちと一緒に振り返ってみると、ホワイトボードに書ききれないほどたくさんの方が次々と思い出されました。子どもたちから、「もっと大きい紙をもってくれば？」と提案があり、担任が全紙大の大きさの紙を持ってくると、さらに多くのことを思い出すことになりました。『僕たちのできるようになったことは、まだたくさんあるからもっと大きい紙にしたほうがいい。』と言っているような自信と喜びが伝わってきました。

紙に書いた一つ目は、「いろいろ食べられるようになった。」ということです。幼稚園でこれまで栽培した野菜は、全部で15種類ほどあります。野菜が苦手な子にとっては、一つ一つの野菜収穫の度に、「食べてみようか。」と葛藤していたので、印象深く思われたようです。その文字の横に野菜の絵を描いて貼る様子は、とても楽しそうでした。野菜を描くと、「毎日水をあげた。」「上手に収穫できた。」など、その時の状況を思い浮かべて連想し、「他にもできたことがあった。」と気付いていました。また、鉄棒や独楽回しなど、努力してできるようになったことだけではありません。中には、ままごとで友達と遊んだことをあげる子もいました。よく聞いてみると、「前はけんかしていた。」という補足があり、納得しました。「けんかしなくなった自分」を実感しているのです。他にも「耳がよくなって、友達の歌や泣いている声が聞こえるようになった。」「友達に譲れるようになった。譲ってもらうと、ありがとうって言う気持ちになった。」「泣かなくなった。」「考える人になった。」「チャレンジする人になった。」「お手伝いする人になった。」「早寝早起きを自分でできる。」というものもありました。

文字と絵を並べて書く間、自分たちの成長を実感するとともに、苦手だったことにも向き合って取り組んだことを振り返ることになりました。このように、これまでのことを立ち止まって見つめてみると、自分と友達の良さを改めて実感し、自分たちの成長を認め合う場面となりました。頑張っている自分を誇らしく感じる気持ちの積み重ねこそ、自己肯定感を高めることにつながると思います。

ご家庭で子育てをしていると、あたりまえのように感じている日常のやり取りの中にも、「いつのまにか」と、成長を感じることはありませんか。「いつのまにか」過ぎ去りそうな成長の記憶を言葉にして伝え、「いつのまにか」成長した子どもたちのよさを具体的に認めていきましょう。

《今月のめあて》

- | | |
|-------------|--|
| 4歳児
こりす組 | ・友達に思いを伝えたり、友達の思いを聞いたり受け止めたりしながら、遊びや学級全体の活動を楽しむ。
・年長児と遊んだり、当番の仕事を教えてもらったり、未就園児と関わったりすることを通して、年長組になる期待をもつ。 |
| 5歳児
もり組 | ・互いに考えを出し合ったり、よさを受け止め合ったりしながら、いろいろな遊びを進めていく楽しさを味わう。
・自分の課題や目的をもち、それに向かって自分の力を十分に発揮していく。 |

今月の歌

☆ やぎさんゆうびん ☆

- | | | | |
|---|-------------------|---|-------------------|
| 1 | しろやぎさんから おてがみ ついた | 2 | くろやぎさんから おてがみ ついた |
| | くろやぎさんたら よまずに たべた | | しろやぎさんたら よまずに たべた |
| | しかたがないので おてがみ かいだ | | しかたがないので おてがみ かいだ |
| | さっきのてがみの ごようじ なあに | | さっきのてがみの ごようじ なあに |